

# 平成27年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-8号)

農林総合研究センター  
平成27年7月17日調査

## 気象経過

- 7月第2半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年より低く（金沢：-1.3℃、輪島：-1.8℃）なった。日照時間は金沢で平年より少なく、輪島では平年並（金沢：68%、輪島：97%）となり、降水量は金沢で平年より少なく、輪島では平年より多くなった（金沢：42%、輪島：112%）。
- 7月第3半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年よりかなり高く（金沢：+4.2℃、輪島：+3.4℃）なった。日照時間は、金沢、輪島ともに平年よりかなり多く（金沢：268%、輪島：243%）、降水量は、金沢、輪島とともに平年よりかなり少なかった（金沢：0%、輪島：0%）。
- 7月16日に新潟地方気象台から発表された、向こう1か月の予報では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。平均気温は高い確立50%です。降水量は少ない確率50%です。日照時間は多い確率50%です。

## 生育概況等

### 【生育状況】

#### 1. 出穂期

ゆめみづほの出穂が加賀地域、能登地域ともに見られ、近年より3～5日程度早まった。能登ひかりは近年並～3日程度早まる見込みである。

ゆめみづほ 加賀：7月13日～18日（近年より3～4日程度早い）  
能登：7月19日～20日（近年より4～5日程度早い）  
能登ひかり 能登：7月23日頃（近年並～3日程度早い）

コシヒカリの出穂期は、加賀地域で平年より2～4日程度、能登地域は平年並から3日程度早まる見込みである。

コシヒカリ 加賀：7月25日～30日（平年より2～4日程度早い）  
能登：7月31日～8月4日（平年並～3日程度早い）

#### 2. 草丈

コシヒカリで平年比97%（加賀地域98%、能登地域97%）と平年並、ゆめみづほは、近年比98%（加賀地域99%、能登地域97%）と近年並。

#### 3. m<sup>2</sup>あたり茎数

コシヒカリで平年比103%（加賀地域104%、能登地域101%）と平年並、ゆめみづほで近年比102%（加賀地域105%、能登地域94%）と近年並である。

### m<sup>2</sup>あたり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	440本	(平年比 103%	前年比 104%)	23.9本/株
	加賀	439本	(平年比 104%	前年比 106%)	23.8本/株
	能登	441本	(平年比 101%	前年比 102%)	24.2本/株
ゆめみづほ	県平均	502本	(近年比 102%	前年比 105%)	29.5本/株
	加賀	517本	(近年比 105%	前年比 108%)	30.0本/株
	能登	460本	(近年比 94%	前年比 99%)	27.9本/株

#### 4. 葉色

コシヒカリの葉色は、加賀地域、能登地域とも平年並である。

### 【病害虫の発生状況】

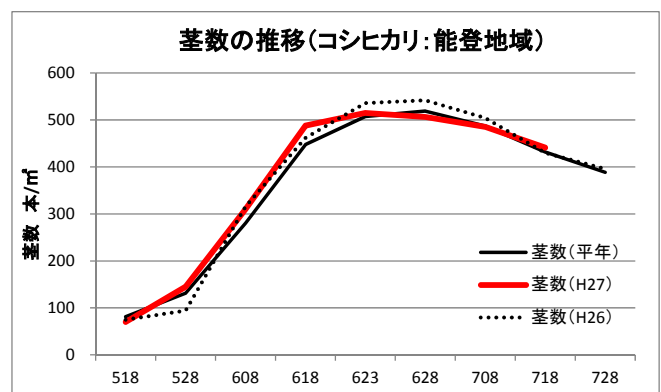
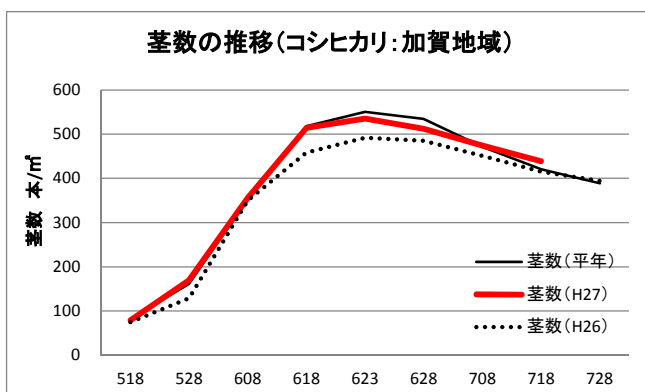
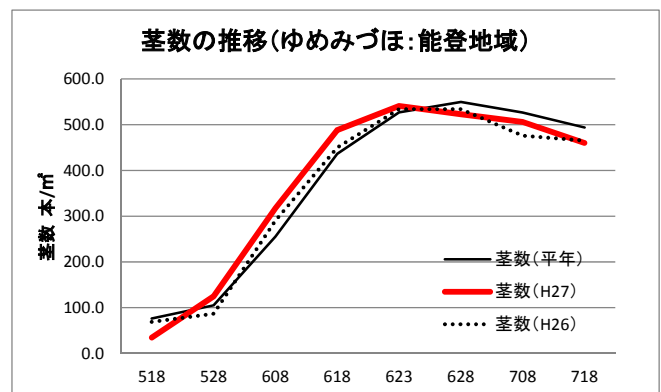
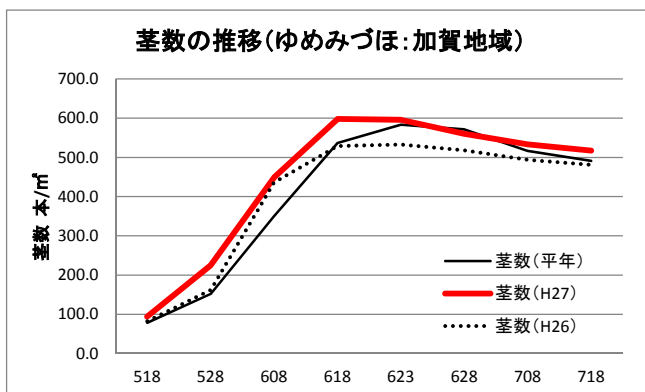
- 雑草地における斑点米カメムシ類（特にアカスジカスミカメ等飛翔性カメムシ類）の発生が多く、今後、水田への侵入量も多いと予想される。
- 葉いもちが各地で確認されている。

## 当面の対策

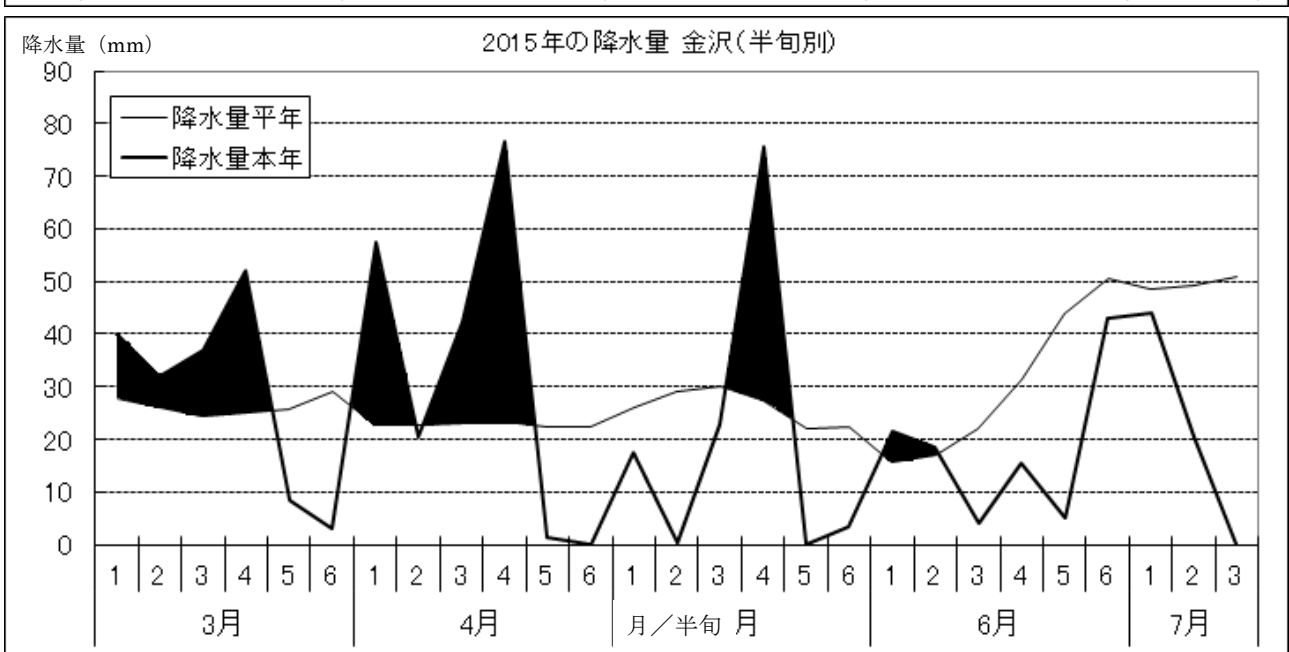
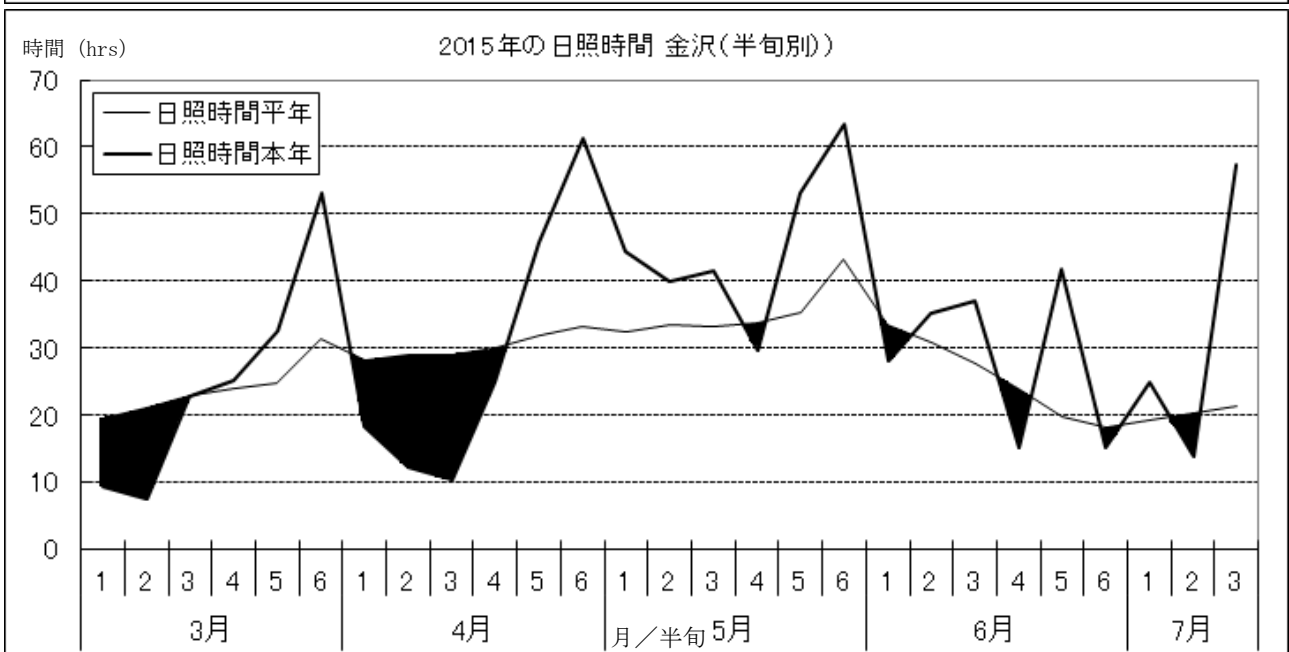
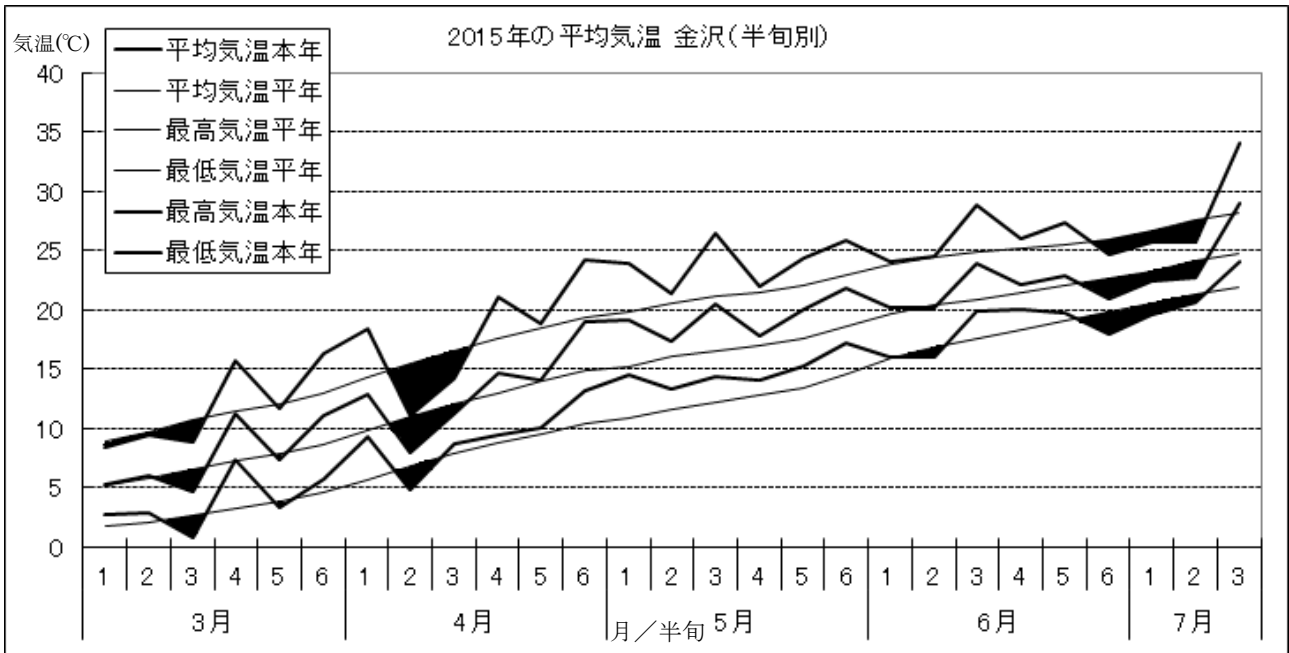
1. 早生は出穂期を迎えており、出穂後は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）による飽水管理を刈り取り7日前まで行う。特に、登熟初中期（出穂後6～20日頃）に高温と水分不足が重なると、白未熟粒・胴割粒の発生を助長するので通水を徹底する。なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
2. 用水をため池に依存している地域等では、計画的な用水利用に努める。
3. コシヒカリの2回目の穂肥は、高温条件下での稲体活力維持のため、地域の基準量を目安に適切に施用する。今後、天候次第で出穂が平年よりさらに早まる可能性があるため、ほ場をよく観察し、遅くとも葉耳間長+2～3cm（出穂7日前）までに終了し、適期を逸しないように注意する。
4. 斑点米の発生を防止するため、7月中に出穂する稲は、出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。また、8月以降に出穂する稲では、出穂7～10日後の防除を徹底する。  
なお、防除後もカメムシの本田侵入が確認された場合は、さらに追加防除を実施する。
5. 出穂後の畦畔除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は本田防除の直前に行なう。
6. 穂いもちの発生を防止するため、葉いもち発生の有無に関わらず出穂前の基幹防除を徹底する。なお、葉いもちの発生を認めたら直ちに周辺ほ場を含めて防除を実施する。

<参考：地域別茎数の推移>

- ・ゆめみづほ、コシヒカリともに現在の茎数は平年及び前年並となっている。

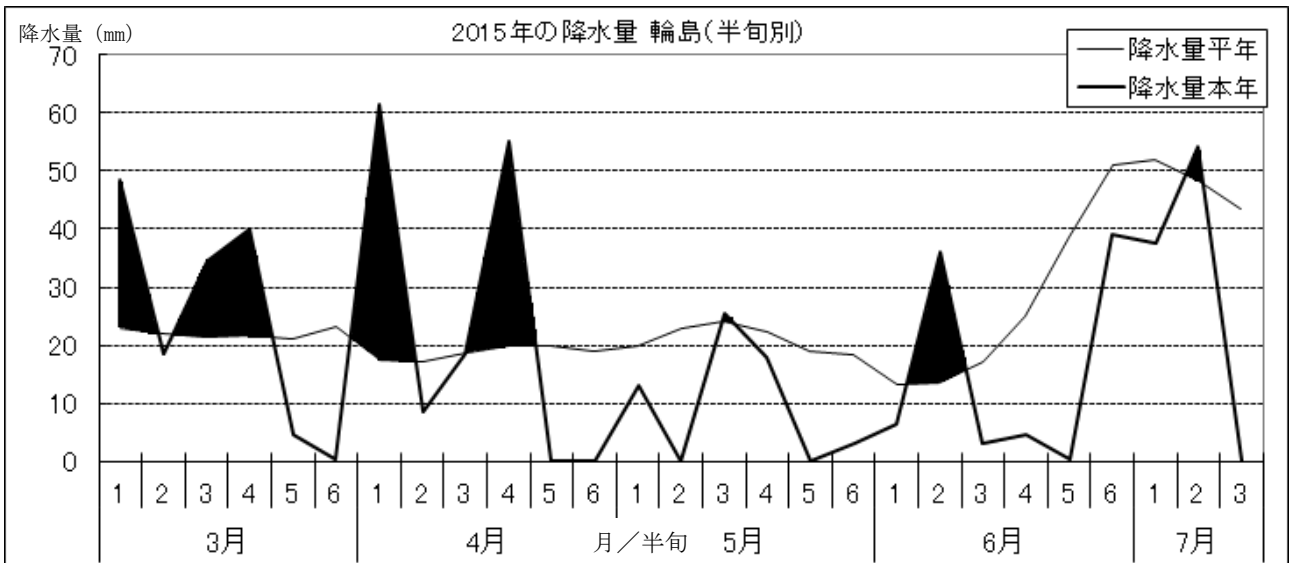
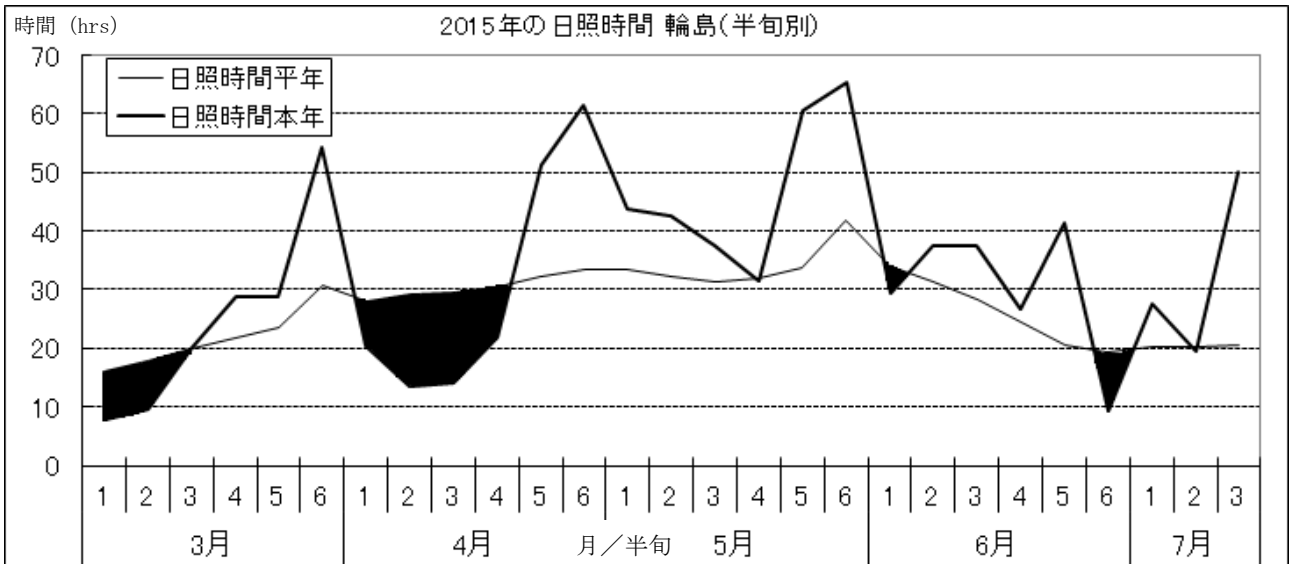
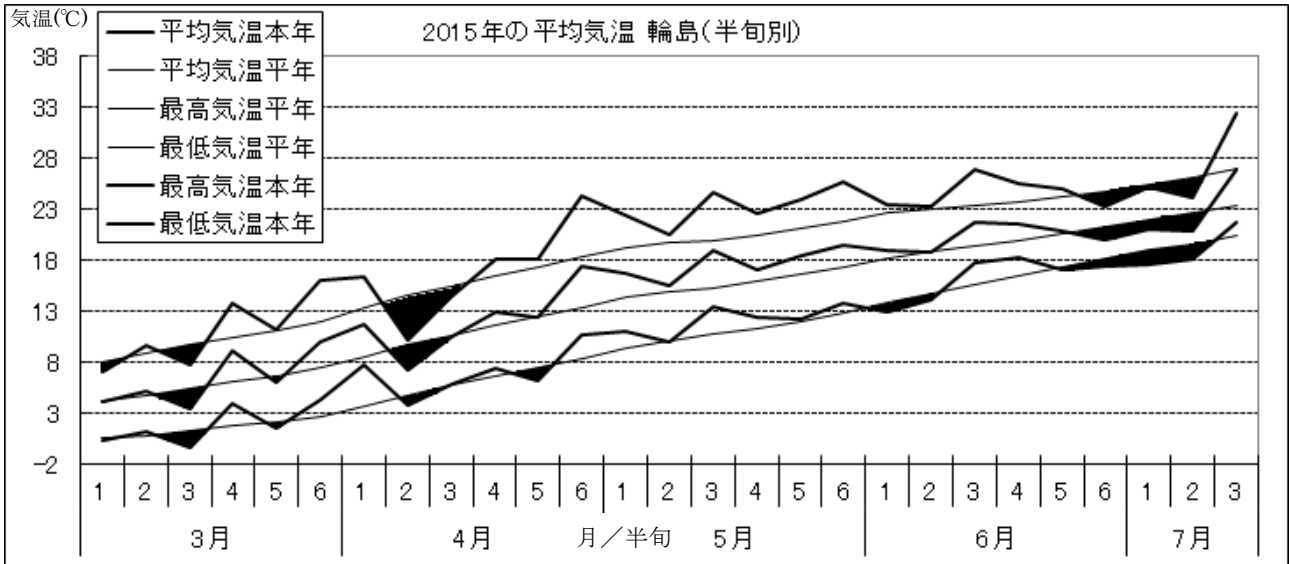


# 気象経過イメージ (金沢气象台)



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

# 気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い